

植木類輸出促進に向けた害虫の防除手法の開発

海外で人気が高まる植木・盆栽類の産地の活性化や輸出の拡大を実現するための画期的な検疫対策

研究開発の背景

- 日本の伝統的植木・盆栽類は、海外で人気が急上昇し需要が大幅に増加するなど、輸出の機運が高まっている。
- ところが、輸出先で盆栽から線虫が検出され、輸出がストップする事例が増加し、1件で最大数千万の損害が発生している。
- これまで植木・盆栽類の線虫に関して生態や防除手法の情報は少なく、対応が急務である。

研究成果の内容

輸送後まで検出数をゼロにできることを実証

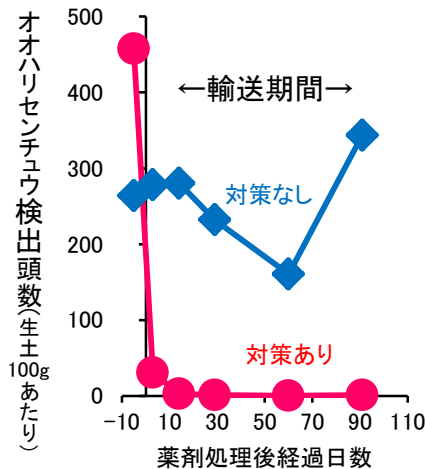
- 輸出阻害の主要因(オオハリセンチュウ)を特定
- オオハリセンチュウに効果的な2剤を新たに適用拡大し、**防除手法を確立**
- 処理してから輸送期間をへても**検出数をゼロにできることを実証**



輸出阻害の主要因となる
オオハリセンチュウ

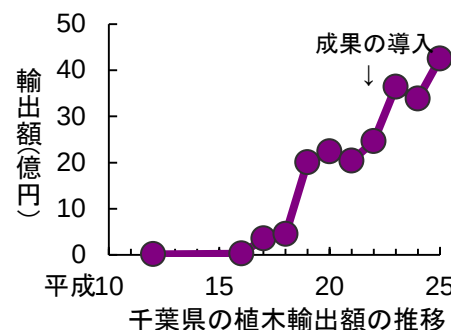


開発した根鉢浸漬法



導入メリット

安定的輸出が可能となり、輸出額の増加に貢献 県内植木輸出額1.9倍(平成25年、5年前(成果導入前)比)



輸出される植木

導入生産者は効果を実感、産地の活性化へ

- 検疫合格割合の改善 : 「強くそう思う」55%、「そう思う」45%
(大規模輸出業者へのアンケート結果)

農林水産省 植物防疫課のコメント

EU諸国への盆栽輸出が好調ですが、最近、検疫で線虫が検出されて輸出を取り止める事例が出ています。オオハリセンチュウの駆除に高い効果をもつ、「根鉢浸漬法」の活用をオススメします。

農林水産省 園芸作物課のコメント

植木・盆栽等は、花き輸出額の大部分を占めており、近年需要が増加している一方で、資源の枯渇が懸念されています。

本手法は、持続的かつ安定的な輸出に資するものなので、オススメです。

期待される効果

- 「日本産植木」ブランドの強化による輸出量の安定的拡大→強い農業を実現
- 新規輸出先開拓や輸出樹種拡大により植木産地の経営改善や技能継承が強化→強い産地の実現

導入をオススメする対象

埼玉県、福岡県、愛知県、香川県など、
植木輸出生産者を擁する地方自治体・業者

開発機関: 千葉県農林総合研究センター、農研機構中央農業研究センター、森林研究・整備機構、埼玉県農林総合研究センター、
(有)ネマテンケン、横浜植木(株)、千葉県植木生産組合連合会、埼玉県輸出盆栽研究会、
予算区分【競争的資金、県単独予算】